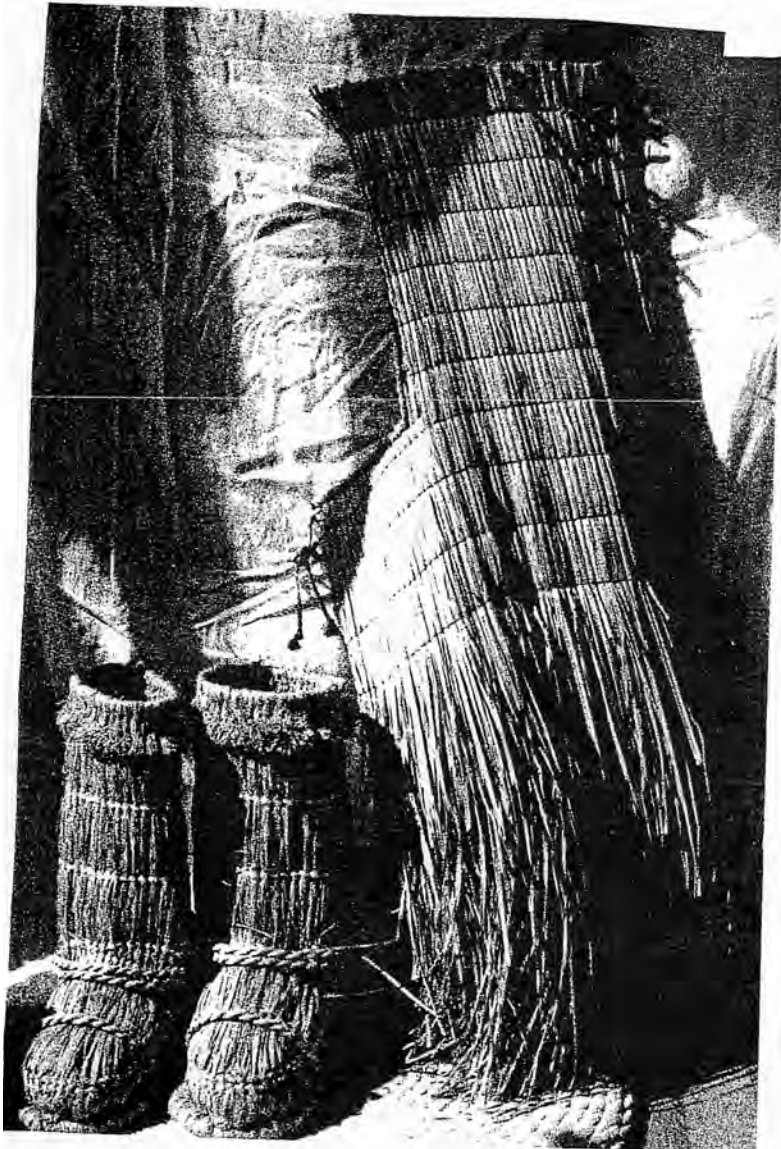
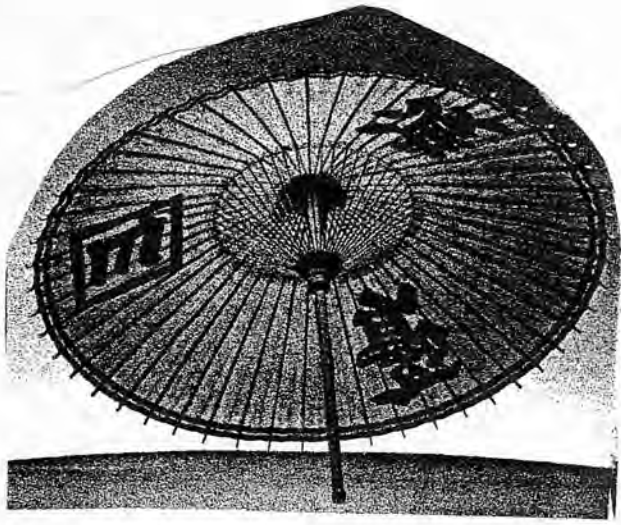


## 雨降りと雪の日

雨 雨 降り降り 母さんが 蛇の目で お迎え 嬉しいな  
あらあら あの子は ずぶ濡れだ 柳の根方で 泣いている

雨降りお月さん 雲の陰 お嫁にゆくときや 誰とゆく  
ひとりで傘さしてゆく 傘ないときや 誰とゆく……

故郷福嶋は、とても雨の多い里である。雨の日、大きな番傘を「ぱりぱり」と音をさせて開くと、プンと油の匂いがした。



雪の日は、上級生を先にして、深い雪の中を船が波を分けるようにして学校へ。ゴム長靴の中に藁を敷いて、「唐辛子」を入れてみると、とても温かった。しかし足袋は、とんがらしの匂いがしているので、とても困った。

莫莖帽子に、大きな名前を書いてあるので、下校時には直ぐ自分の物が分るので便利であったが、大きな看板を被いて歩くようなものだった。

福嶋では、写真のような藁靴（ふかぐつ）でもなく、藁靴は滅多になかった、これは私が新潟に居た時に買い求めたもので、福嶋のものとはもって格好が良かったし、靴はゴムの長靴であった。